

# むつみ

第45号 平成11年1月29日



コンポストを利用した野菜畠  
(月館町 御代田地区)

福島県土地改良団体職員連絡協議会

## 目

## 次

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	『人間五十年』	猪苗代町土地改良区
新年のご挨拶	福島県土地改良事業団体連合会	十年を振り返って	高橋二三雄
新年のご挨拶	副会長 黒澤清	二十年を振り返りそしてまた二十年後	布藤土地改良区
浄化槽の重要性と技術管理者の役割	土地連	豪雨奮戦記	東根堀土地改良区
卯年を迎えて	昭和村土地改良区	阿武隈川上流土地改良区	石神正雄
水の大切さ	鶴沼川防災ダム連絡協議会	磐梯西部土地改良区	芳賀昭次
一九九九年の志	佐藤晴夫	回想	鈴木和意
新年の抱負	歌川幸二	編集子	
『90—62=28』	土地連		
新 春	長沢幸江		
新年を迎えて	川内村土地改良区		
土地改良区	大山モト子		
渡邊秀雄	塩川西部土地改良区		
会津高田町土地改良区			
佐藤正雄			
請戸川土地改良区			
天野真由美			
土地改良区			
山寺一			

### 表紙写真

撮影：土地連

三一上 多恵子 氏

農業集落排水処理施設の汚泥を完熟させて作ったコンポストを利用し、化学肥料を使わず、有機栽培実験ほ場で大根を作りました。気持ちの良い秋の晴天下で、自慢の大根を撮影しました。

# 新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 松本充弘

新年あけましておめでとうございます。四百六十七名会員の皆様に

は兎年の本年新たな希望に充ちた新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、土地改良団体職員連絡協議会の各行事、運営につきまして深いご理解のもと積極的なご協力を頂いておりまこと厚く御礼を申し上げます。

昨年は八月末の集中豪雨や九月の度重なる台風により福島県内特に県南、県中地方が大きな被害を受けましたことはまだ記憶に新しく改めてお見舞を申し上げますと共に災害復旧工事等による早期の回復をお祈り申し上げます。更には長雨等による日照不足等も重なり収量不足や等級の低下で誠に厳しい年ではなかつたかと思われます。

昨年も申し上げましたが土地改良区に従事する私たちにとって収穫時の農家の方々の明るい笑顔に触れたとき、何物にもかえがたい喜びが涌いてくるものであります。本年は是非とも皆さんと共に心より笑顔で挨拶を交わせる良い年であつて欲しいと願うものであります。

さて、二十二年目を迎えた当協議会は十年度において様々な事業を実施したところであります。恒例の総会および業務研修会は浪江町にあります「いこいの村なみえ」

において一一三名という多数の参加をいただき、盛会裡のなかに開催できました。総会は原町市土地改良区青田正敏さんに議長の大役をお願いをし全議案を満場一致のご賛同をもってご承認いただきました。続いて永年勤続職員の方々二七名の皆様と特別功労者として前副会長安積疎水土地改良区六角信也さんの表彰を致すことができました。受賞された皆様に対し心よりご祝福を致すと共にこれからも地域にありますますのご活躍をご祈念致すものであります。総会終了後、引き続き研修会に移り写真で拝見していたよりはるかに若々しくチャーミングなアン・マクドナルドさんより「東北の農山村・農業の発展に向けて」と題して講演をいただきました。外国人として外から見た日本の、そして東北の農業を的確に見極めていることに皆さんも感銘を受けたものと思います。

つぎに九月中旬には、昨年に引き続き中国への海外研修を福島空港利用促進協議会との連携により実施することができ国内では見聞きできない何かを吸収せられたものだと思います。

一方で、予定をしていた千葉県への県外研修が、前述の災害により中止になりました。

世界経済が低レベルで揺れ動いているなかわが国において昨年は特に未曾有の経済不況に陥り、大企業の倒産、リストラ等が尚いつそう国民の不安を増大させることとなりました。

加えて、各地方自治体でも地方債残高の率が膨れ標準財政規模に対する財政調整基金の割合が低くなるという厳しい現状に立たされていることは、財政的にもその他多面にわたり行政から援助を受けているわれわれの団体は自治体が抱いている以上の経費削減を図り運営にあらねばならないのではないでしようか。

然し乍ら世の中そうそう捨てたものではないでしょう。「苦あれば樂あり」は必ずあるものです。ということを信じ本年も本会会員の皆様そしてご家族におかれましては、前年にもまして実り大きな幸多き年であられますようご祈念し新年の挨拶といたします。

# 新年のご挨拶



福島県土地改良団体連合会

副会長 黒澤 清

新しい年の始めに当たり、土地改良団体職員連絡協議会の皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

土地連の業務運営及び農業農村整備事業の推進につきましては、日頃より格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、農業農村を取り巻く情勢は、担い手の減少や高齢化、耕作放棄地の増大などの内部危機の進行に加え米の関税化の受入れによって稻作農業のみならず日本の農政にも大きな転換が求められる重要な時期となっております。

こうしたなかで、昨年末に閣議決定された平成十一年度農業農村整備事業の政府予算案では、前年度比百・七%と大幅な動きはなかったものの、担い手の農地集積や中山間総合整備事業に重点が置かれ、国際化の急激な進展に対応できる効率的で活力ある農業の確立を目指した施策を開拓するためには、厳しい内容であることには変わりはないものと考えております。

また一方、国におきましては、食料、農業、農村、基本問題調査会

の最終答申を受け新しい「農業基本法」の制定と共に私共が携わっております「土地改良法」の改正についても検討が進められ、二十一世紀に向けた新しい農業農村の枠組みが形成される極めて重要な年であります。

いずれにいたしましても、農業農村にとって必要なことは、農地の整備や担い手の確保等によって生産性の向上を図り、国際競争に踏み込める農業の構築と農業を営む方々の住み良さが実感出来る農村環境の整備が重要であると考えております。

本年も、土地連といたしましては、本協議会会員の皆様方と共に、会員土地改良区の進展のために努力して参りますので、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

## 第二十二回 総会

本協議会の第二十二回総会は、去る平成十年六月十七日浪江町のいこいの村なみえにおいて会員及び多数の来賓の出席をいただき開催された。

の司会で、松本会長（請戸川土地改良区）の挨拶のあと、特別功労者、永年勤続者表彰が行なわれ、表彰状と記念品が贈られた。

# 会長挨拶

(平成十年六月十七日)

本日ここに第二十二回目となり  
ます福島県土地改良団体職員連絡  
協議会の総会を開催致しましたと  
ころ会員の皆さんには大変お忙し  
いところ多数のご出席をいただき  
このように盛会裡に開催でります  
こと主催者といたしまして厚く御  
礼申し上げます。誠に有難うござ

いは四年連続の豊作により大幅な供給過剰となつたことから新たな米政策大綱が決定され、緊急生産調整推進対策事業が二ヶ年にわたり実施され、所謂十年度稲作転換面積が三万六千二百二十九ヘクタールにも及び

実に三十四%を越えるに至りましたことは誠に厳しい状況といわざるを得ません。

そうしたなか本年は水不足にもならず農作業も順調な滑り出しで先ずはひと安心のことと存じます。土地改良区に奉職しております私たち職員は、農家の方々の活気のある明るい笑顔に接したとき新たな意欲が湧いてくるものであります。

本に来られてから一貫して日本の農村とは?を見続けて問題を提起しておられますアン・マクドナルドさんの講演もありますので我々が思い描いている農村農業の実態や在るべき姿等と比してどのように違いが在るか楽しみであります。

本日の総会におきまして、四十五名の皆様が永年勤続職員並びに特別功労者として表彰を受けられます。それぞれの立場で農業の進展と農家経営の向上の礎となりご尽力戴きました



次のとおりです。受賞者の皆様おめでとうございます。健康に留意されまして益々の御活躍を祈念いたします。

案どおり承認された。

また、役員の改選、規約の改正について提案があり、事務局の説明後原案どおり可決された。

した方々であります。心より敬意を表しますとともに今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。また、本年度の事業のなかで特筆すべきことは昨年度追加事業にて実施を致しました海外研修が当初から計画がなされたということですべてあります。

この件につきましても土地連さんの暖かいご理解とご協力によるものでありこの職員連絡協議会の存在感を深く正に認識戴いたということでもあり私たち職員一同目前にせまりました二十一世紀に力強く邁進する確かな証といえます。

本日の総会には平成九年度事業報告を始め七件の議案を提出しておりますので、慎重にご審議を戴きまして円滑に終了できますようお願い申し上げまして挨拶と致し

## 特別功労者及び永年勤続者表彰



祝電

続いて荒和英具土地連副会長、叶幸一浪江町長、高橋典彦相双農林事務所長からそれぞれ祝辞を頂戴した後、祝電が披露された。

◇前参議院議員  
◇参議院議員  
◇県土地連会長

佐太佐  
藤田藤  
豊秋静  
雄

二十年勤続	福島県土地改良事業団体連合会	所属団体名	
		阿部美恵子	高橋綾子
安達疏水土地改良区	伊達西根堰土地改良区	佐々木つや子	高橋綾子
須賀川市土地改良区	猪苗代町土地改良区	遠藤俊明	高橋二三雄
西郷村土地改良区	社川沿岸土地改良区	橋本雄司	高橋二三雄
戸ノ口堰土地改良区	会津若松市湊土地改良区	山寺一	山寺一
阿武隈川上流土地改良区	阿武隈川上流土地改良区	小松武彦	小松武彦
中島村土地改良区	中島村土地改良区	鈴木衛	鈴木衛
布藤堰土地改良区	布藤堰土地改良区	芳賀昭次	芳賀昭次
請戸川土地改良区	請戸川土地改良区	川井秀子	川井秀子
夏井土地改良区	"	原田良一	原田良一
福島県土地改良事業団体連合会	"	佐藤せい子	佐藤せい子
山口良平	工藤純久	江畠立行	江畠立行

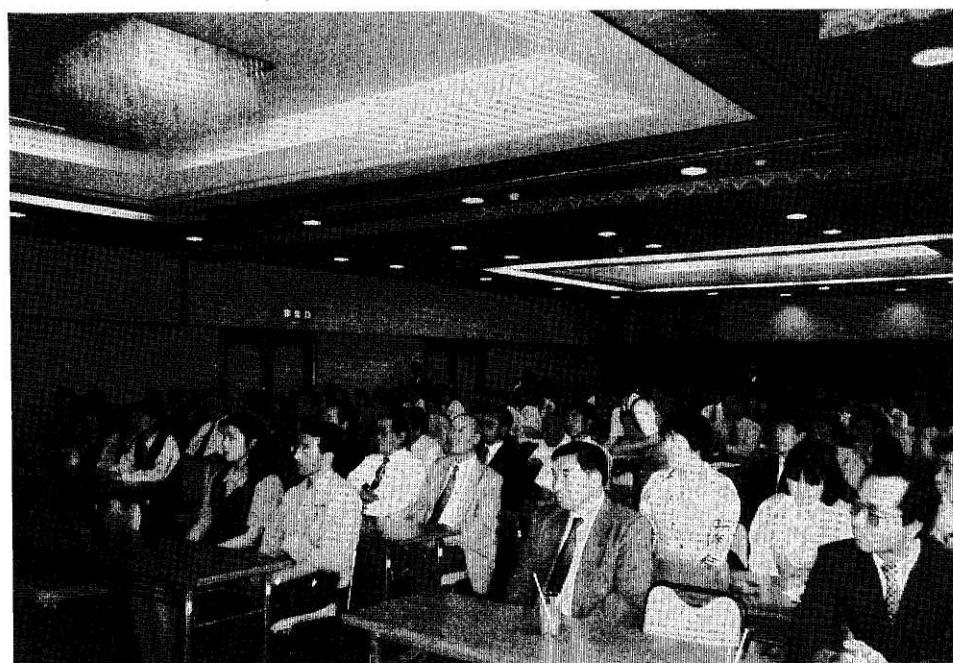
# 職員業務研修会

## ○職員業務研修会

本協議会主催の研修会は、「国政（農政）における諸情勢について」を前参議院議員佐藤静雄氏に、「東北の農山村・農業の発展に向けて」を宮城大学専任講師アン・マクドナルド氏に、「土地改良制度問題をめぐる諸情勢について」を県土地連副会長黒澤清氏に、それぞれ講演をお願いした。

また、翌日は現地研修とし、県相双農林事務所、大柿ダム管理事務所の方の案内で、「大柿ダム」の見学を行った。

各講師の先生には、公務ご多忙のところお引き受け頂きありがとうございました。



# 県外研修

平成十年九月三日（木）に千葉県かんがい排水事業「大利根地区」の視察研修を予定しておりましたが、八月末の水害による諸般の事情により中止いたしました。平成十一年

度の県外研修に、同地区の視察を予定いたしましたので、ふるってご参加くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

## 海外研修

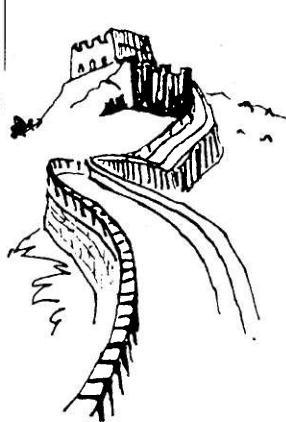
平成十年九月十七日から二十一日まで、中国（上海・北京）への海外研修を実施しました。

研修に参加された方の感想が届いておりますので、ご紹介いたします。

### 悠久の中国を旅して

表郷村土地改良区

滝田国男



中  
國

アジアの大國「中国」は、私の旅したい国の一つだったので、真っ先に参加申し込みをした。福島空港からの直行便だったのも、旅の煩わしさからの回避もでき、上機嫌での旅立ちだった。

上海を間近に目に飛び込んできたのは、海の色の「茶褐色」した光景だった。長江から流れ込んだ「陸の水」の汚濁水だったのだ。日本と同じく洪水被害に遭っているとは聞い

北京での第一印象は、歴史が詰まつた都市（温故知新）の心境だった。故宮・天壇公園・天安門広場・万里の長城など、そのスケールの壮大さに、言葉を失うほどだった。

話は変わって、「中国料理の楽しみ」は、全般に口に異論はなかったが、日本人好みからいうと、微妙な味と匂いの違いにより「中華料理」とは違うな?と思つた人も多いはず。食後のデザートは、必ずオーケシ

ンが催されここぞとばかりフンパツし、掛け軸・宝石・シルクのパンティ・スカーフ等「売り放題」の盛況だった。値切りや家業も現れ、六割~七割引きまで覚えた人もいた。

最後に、同行した皆さん的心の広さと、優しさが旅の楽しさを、一層引き立てて戴けたものと感謝申し上げ、更に企画して戴いた関係者にく御礼を申し上げ難感とします。



農作業風景

## 中国研修旅行を振り返つて

社川沿岸土地改良区

緑川源治



研修会 役所内で説明を受ける

去る九月十七日から二十一日まで、四泊五日の日程で中国へ行って参りました。機内から見る中国本土は、

ようど夕方のラッシュ時だった為、大変混雑しておりました。まず印象的だったのは、すごく慌しさを感じました。中国というとすごく静かな感じを受けますが、上海は東洋一の繁華街の印象を強くしました。どこを見渡しても建設ラッシュで、二十四時間体制でビル建設が行われております。しかし、大都市の傍らでは、稼ぎを上げる為に路上のあちらこちで商売している光景が印象的でした。九月の中国は

広大で日本とはスケールが違うことを実感しました。上海空港からバスで移動しましたが、車窓からみる風景は超高層ビルが建ち並び、車、バイク、自転車、歩道から車道を行き交う人達で溢れ返っていました。ちょうど夕方のラッシュ時だった為、大変混雑しておりました。まず印象的だったのは、すごく慌しさを感じました。中国というとすごく静かな感じを受けますが、上海は東洋一の繁華街の印象を強くしました。どこを見渡しても建設ラッシュで、二十四時間体制でビル建設が行われております。しかし、大都市の傍らでは、稼ぎを上げる為に路上のあちらこちで商売している光景が印象的でした。九月の中国は

二人に一台以上というのですから驚きです。北京の目玉はやはり万里の長城、天安門広場、故宮です。特に万里の長城は素晴らしいです。歴史上いつ造られたかははっきりしないですが、宇宙から地球を見たとき唯一確認することが出来る建造物と聞き、実際に見物してみて壮大さを実感しました。中国四泊五日の研修旅行について振り返ってみましたが、たった五日間のことでしたら、ある研修旅行だった様に思います。狭い日本を離れ、海外から日本を見れたこと、中国人の方々と、言葉はあまり通じなくともふれあうことが出来たことは、私の中での財産になりました。今後もどんどん海外へ目を向け勉強していくことを考えておりまます。

が心地良く感じられました。首都北京は人口約千二百万、上海と並び中国最大の都市です。やはり車、自転車の台数は多く驚きました。北京の自転車の保有台数は七百万台で、

## 海外視察研修に参加して

遠野土地改良区

高木禮子

平成十年九月十七日より九月二十一日まで四泊五日の日程で上海北京の二都市を訪れました。機内で中国よりの昼食を食べ終えると程なく上海空港へと到着しました。中国最大の都市上海は高層ビルが次々と建設されており私たちを驚かせました。次の日は上海市内視察で玉仏寺豫園などを見学しました。そして今回の研修の目的である上海郊外農業視察となりました。人民政府の職員の方の案内により、現地研修と農家見学になりまして現地研修では職員の方の説明によると畑は野菜が中心で次に麦、水稻となり温室栽培はコストが高いそうです。又農家見学では中流家庭を見せていただきましたが日本に比べるとまだ生活水準は遅れているようです。そして上海最後の夜には世界的にも有名な「上海雜技團」を見学しまして、本当に人間技とは思えない数々の芸術に驚くばかりでした。又夕食の中国料理では、食べられる人、食べられない人等いろいろでした。そして食事の後では必ず爽やかで、吹く風です。湿気もなく



農場見学

お土産の掛け軸等の値段のやりとりなどがあつて結構楽しい時を過ごしました。三日目には上海空港より北京空港へと到着しました。北京は上海と違つて落ち着いた感じがしました。この日は北京市内の天安門広場、故宮などを見学しました。そして、この旅行中移動のバスの中から外を眺めていますと信号があつても自転車や人が平気で歩いているのには、とてもびっくりしました。ガイドさ

んに道路の優先権は誰ですかの質問に「勇氣ある者」ですとの答えが返つてきました。そして最後の研修地である明の十三陵、万里の長城となりました。明の十三陵では中国の歴史の古さにただ驚くばかりでした。そして一度は来てみたいと思っていました「万里の長城」へと登つてきました。この短い五日間の研修ではありましたが、日本語のすばらしいガイドさんに恵まれ私自身も得ることが多く、そしてこれから先発展していく中国に期待をよせ、この研修に参加できましたことにお礼を申し上げまして私の訪中記にさせていただきます。

## 視察研修に参加して

広戸川沿岸溜池土地改良区

大野文夫

你好。この度の中国の海外研修に参加して感じたほんの一部を報告いたします。

去る九月十七日福島空港発午後二時三十分四泊五日の旅上海へ向け空港を跡にした。

三時間近くで上海上空旋回の中、長江の水害状況を見ることができた。幸い好天に恵まれカメラに撮めながら着地でホットしました。

さて、待ちにまつた上海、待つていたバスに乗りビックリ。往来する人、車がこれで事故が発生しない不思議な程、まるで軽業師、そんな中乗車後早速外灘へ、上海のシンボル、



万里の長城

アジア最大の共同テレビ塔、行き交う黄河江、日本語ペラペラによる説明、説明を横目にヨーロッパ風を思わせる建築物が林立しカメラチャンスを狙つた。さらに気にかけたのが体重計、身長計があつて若いカップル等が元を払つてニヤニヤしながら計測していた。

二日目は、神秘的な玉仏寺の横臥、これはミ

ヤンマーから贈

られた积迦が安置されている。庭園の豫園は池の中心に浮かぶ心亭の茶館がある。その後上海郊外にある農業視察地市役所（七宝鎮）へ。係の王さんより現地での説明等を頂き質疑、意見交換に入った。

七宝鎮は千年余りの歴史を持つ上海の西南に位置し都市部から十八キロメートル離れ空港に近く三キロ

メートル程の距離にあり大変交通の便がよい。人口は、二万六千人で、農家は約七百戸、総面積は二十一平方キロメートル、耕地は五百ヘクタールあるものの出稼ぎ者が来て栽培している。ある農家は四人家族で祖母と子供一人と若夫婦、その夫婦は共働き、出稼ぎ者は野菜を中心として、四十種類位を作付けしている。毎日市場へ十五もの野菜を出荷している。



農村市場

出稼ぎ者は気軽な働きか、のんびりと三本鍬で耕起し、日本では見られない長閑な農作業の一場面を見た。小生も三本鍬を借りて耕して見た。

また、その様な状況の中で工業も盛んに発展し所属する工場は十八あり、その外合弁と合資企業が五十ヶ所余り主に米国、日本、香港と台湾との合弁合資である。この鎮には、病院一、

帽子を求めた。千円なり。中味の絵はがきは嘘その物であり、これで生活をしているかと諦めた。

天安門広場の現代中国を象徴する美しい門、故宮は二十四人の皇帝がここで生活、約百万点に及ぶ財宝の展示、明の十三陵は明代十三人の皇帝とその皇后たちの巨大な陵墓、いづれもすばらしい財宝である。

この四日間食べ物は、美味しく、楽しく、愉快に、そして、天候に恵まれた。福島空港は昼間で強い雨が降っていたとのこと、無事帰還となり、その一端を申し上げ、有意義な研修の旅であった。

再び。  
ソア  
冗談。  
シヨウダン。  
謝謝。  
ショキョク。  
二十一名の参加者、  
謝謝。  
ショキョク。



上海市内

# 第21回全国土地改良大会開催される —大地がロマンを語りつぐ—

去る十月十四日（水）、金沢市の「石川県産業展示館」において、全国の土地改良関係者約三千四百名（本県参加一五名）が参集し、全土連並びに石川県土連主催、農林水産省・石川県・金沢市等の後援により「大地がロマンを語りつぐ。」をテーマに、より多くの方々に農業農村整備の重要性を認識していただき同時に、次世代への農業・農村文化の継承を通じて未来を構築していくことを目的に第二十一回全国土地改良大会が盛大に開催された。

大会は、午前

十一時よりオープニングビデオ「石川の大地の詩」の上映で開会した。式典は、矢田石川県土連副会長のあいさつで始まり、参加者による国歌斉唱の後、梶木全土連会長が主催者を代表し、「みずほの国の農業・農村は、二千年以上にわたって水と土の事業である土地改良とともに先人たちが築き守り続けてきた財産であり、それを次世代に伝えて行くことが我々の責務である。」とあいさつを述べ、谷本正憲石川県知事、山出来賓として出席された中川農林水産大臣の代理の松下忠洋農林水産政務



シンポジウム風景

次官、長憲二石川県議会議長よりそれぞれ祝辞が述べられた。続いて土地改良功績者表彰が行われ、農林水産大臣表彰六名、農林水産省構造改善局長表彰十六名、全国土地改良事業団体連合会会长表彰四十七名がそれぞれ表彰された。本県からも白井正敏会津本郷町土地改良区理事長が全土連会長表彰を受けられた。

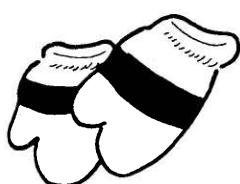
次いで、農林水産省構造改善局の森田次長が農業農村整備を巡る最近の情勢等を内容に基調報告を行い、石川県内の農業後継者吉田一義さんと土屋市で花卉栽培に取り組む高木純子さんが大会宣言（後掲）を行った後、次期開催県の愛媛県がビデオで紹介される中、大会旗が矢田石川県土連副会長から塩出愛媛県土連会長に引き継がれ、吹田全土連副会長の音頭で万歳三唱が行われ、矢田石川県土連副会長の閉会のあいさつで式典を終了した。

午後一時からは、記念シンポジウムが行われ、第一部では、食料・農業・農村基本問題調査会の木村尚三郎会長が「二十一世紀農型社会の創造」と題して基調講演を行い、「これまで我々は未来のために今日を犠牲にすることが出来たが、これからは

自分の暮らしを充実する生活に変わつて行く。『くらしといのち』、『生活と生命』が大切にされるようになつて來ており、こうした視点に立つて農業も考える必要がある。」旨を強調された。

また、第二部では木村尚三郎氏、大泉一貫氏、柳沢京子氏、北村歩氏をパネラーに迎え、中村靖彦氏が「ディネーターとなり「進む国際化・変わる農業」をテーマにパネルディスカッションが行われた。

最後に「炎太鼓」等の歓迎アトラクションが行われ第一日の日程を終了した。



# 大會宣言

我が国の農業・農村は、2千年以上に及ぶ期間にわたって国民の「くらしといのち」を守り、水と土の事業を通じて国土の形成に寄与しつつ、親から子へ、子から孫へと着実に受け継がれてきた。農業・農村の有する国土・自然環境保全などの多面的な機能は、国民生活にとって欠くことができない役割を果たしている。

その農業・農村は、現在、戦後の経済成長を通じた農地の減少と、農村の過疎化、高齢化などによって、大きな危機に直面している。特に、中山間地域は国土の大部分を占めており、健全な農林業の営みによって農林地を維持していくことが、自然災害を防止し、国土を守る上で重要である。

経済成長の停滞と人口、食料、環境、エネ

ルギー問題の不安という歴史の転換期にあって、国民の生存と安心の確保が切実な問題となっている今、こうした農業・農村の役割に対して国民の期待は高まっている。

このような状況のもと、農業農村整備には、農地や農業水利施設など食料供給基盤の整備による力強い農業の構築、農村の生活環境整備による活力に満ち都市と共生する田園社会の創造、そして中山間地域の整備などによる災害に強い国土づくりと国民の生命・財産の保全に貢献していくことが強く求められている。

我々は、新たな日本の土台となる農業農村整備を協力に推進し、水と土の事業が刻んできた「大地のロマン」を21世紀に引き継いでいくことを、ここに宣言する。

平成10年10月14日

第21回全国土地改良大会

## 土地改良功績者



(本県関係)

◎全国土地改良事業団体連合会会長表彰

白井 正敏 氏

○現職名 大正十五年十二月十二日生  
会津本郷町土地改良区理事長

## 浄化槽の重要性と技術管理者の役割

土地連 小野恵則

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には益々ご健勝の事と大慶に存じます。

現在私は、環境整備部集落排水第一課の農業集落排水処理施設維持管理業務で、多忙な日々を過ごしておりますが、日々、皆様から学び得た

事を十分に活かし、今後

の農業集落排水処理施設の維持管理を微力ではございますが、処理施設の発展のために本年も精一杯尽くしていきたいと思

います。

近年、水道水源や湖沼、閉鎖性海域等の水質汚濁

が大きな社会問題となっ

ており、その主要な原因

の一つである生活排水の処理の推進が緊急の課題となっています。この生活排水対策の柱のひとつとして、下水道と並ぶ恒久的施設である合併処理浄化槽が

国民の大きな期待を集めています。平成六年度においては全国の過半数を



# 年男年女

に貢献できるよう今後も更に努力していくことを願っています。

最後に私事ではございますが、これまで色々とお世話をになりました、市町村、土地改良区の皆様には、心より感謝しております。又、今後も色々とご迷惑をお掛けする事もあると思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

境を守っていく上で非常に重要な役割を担っており、それに伴い大きな責任も担っているといえます。特に処理対象人員五百一人以上の浄化槽は、近年、規制の強化、対象物質の追加等が図られてきてる水質汚濁防止法、湖沼水質保全特別措置法等の水質保全関係法令において規制の対象となっており、これらの規制を確実にクリアーし、水質汚濁の防止

## 卯年を迎えて

昭和村土地改良区 佐藤晴夫

新年明けましておめでとうございます。「光陰矢の如し」と、昔からの諺にあるように、時が過ぎるのは本当に早いものです。

三度目の卯年を迎えた私にとって、今年は、人生の大きな節目の年である様に感じられます。

浄化槽技術管理者は、浄化槽管理者自身が果たさなければならない義務のうち、浄化槽の維持管理に関する技術的な業務について、浄化槽管理者に代わって責任を持ち、統括する立場の者です。このため浄化槽技術管理者は、生活排水の衛生的な処理を確保し、地域の生活環境や水環

あります。書いてみようと考

ました。

さて、私の住んでおります昭和村は、標高三百～八百メートルの、急峻な山岳地帯で占められており、県内でも、農家の減少と農業者の高齢化が進行しているところです。そのような地域の中で、土地改良区の存在すらよく分からぬ私が、職員として入区したのは、昨年の四月でした。右も左も分からなくて、毎日が戸惑いばかりで時間だけが過ぎていくような気がします。とても奥が深くて、数字と組合員の名前とにらめつ

# 年男年女



## 水の大切さ

鶴沼川防災ダム連合協議会　歌川幸二

水は、生物にとってとても重要な存在であるが、その反面とても危険な存在であるという事を、今年改めて実感したことである。水は、人間もしくは動物・植物ではなくてはならない存在になっている。人間の体の大半は水分から成りたっており、また、人間が生きる為に食べる動植物（肉・野菜・果実など）にも水は、欠かす事が出来ない。今年（平成十年）の前半は、梅雨時

この日々ですが、与えられた仕事を、「間違えることなくこなしていく事が第一」と、自分に言い聞かせて頑張っています。当地区は、昨年より県営の中山間地域総合整備事業を開始しました。整備内容の中で、ほ場整備や農業用排水整備等も含まれており、現在も事業進行中です。これから一時利用の指定、換地計画原案作

成など多くの業務が行われますので、一つ一つの業務を習得できる様、日々頑張ることが、これから目標であると感じます。とりとめもなく書き並べましたが、最後に私を指導して下さっておりました上司の方々をはじめ、土地連の皆様、関係諸先輩に対しまして、今後とも暖かい御指導を賜りますようお願いいたします。

こし死者もでたように、恐ろしい面ももつてている。こういった事を最大限防ぐために、人はダムをつくった。けれどもそのダムがあることにより、魚に関していえばダムより上流は魚がいなくなったり、その魚を食べる動物もいなくなっていて、そのため植物に及ぼす影響も大きい。つまり生態関係のピラミッド

## 一九九年の志

土地連　長沢幸江

「自分の担当する地区の全ての状況は、誰に聞かれてもすぐに対応出来るようにしておかなくてはいけない」先日、部長が私に仰った言葉です。

私は、その言葉を聞いて、確かに今まで自分がやってきた仕事は、上司や先輩方を頼りにしてばかりいたような気がして、自分自身が凄く恥ずかしく感じました。

それを、学ぶべき事として済ませた所もあった。こういった問題は、日本だけではなく、世界のあらゆる所でおきている問題である。水が危険だというのは、今年の後半に雨が集中的に降った事である。山に降った雨が川に集まり、洪水になり住宅に水が浸水したり、農作物が水につかり多大な被害をもたらしました。また、その雨により崖崩れをお

ト図が崩れてきていると思われる。人間は心地よい生活を求めるだけではなく、生きている動植物と共に存できる環境をつくっていくことが大事であり、自分が仕事を通じて考えていきたいと思う。それに、たかが水として粗末に考えずに大切な資源として考えるべきである。

結局今まで私は、自分の仕事に責任と自信を持ってやっていなかったという事に気付いたのです。



「ダイエット」でしょうか？

## 新 年 の 抱 負

川内村土地改良区 大山モト子

私が、「新年の抱負」という題で「むつみ」の原稿依頼の文章を受け取ったのは引越の真最中でした。当土地改良区事務所は村役場建設課農業土木係にあるため、建

設課が二階から一階へ移動することとなつたためです。十日程を引越に費やし何とか事務体制がとれるようになり確認のため原稿依頼の文書を捜すとなかなか見つからず大変でした。私自身、こう



# 年男年女

又、最近になつて公金を扱う仕事の大変さも理解できてきたような気がしています。

この辺で本題に移りたいと思いますが仕事面の抱負として、ここ数年見合させていた水路等の維持補修工事に着手してゆきたいと考えています。土地改良施設及びため池等についでも名称と場所が一致しないことが多いので現地調査を実施し現況の把握に努めてゆきたいと思っています。来年は、役員改選も控えており事務の面でも多少忙しくなりますが村兼務職員の協力を得て頑張ってゆきたいと思います。

私の事の面では、健康であることが一番であると考えるのでその点に留意して充実した一年を過ごすことが出来ればいいなと思っています。(ちなみに、娘も「卯年」です。)

一年々は「あつ」という間に過ぎて

拙い文章で失礼しましたが私の「新年の抱負」とさせていただきま  
す。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

『90-62-28』

塩川西部土地改良区 渡邊秀雄

足を運んでみました。

会津地方と言われるには県内九十九市町村のうち二十八市町村あります。

この二十八市町村の各集落をこの目で九十九%それ以上見て回りました。

すごい山奥と言われる所。この先に人家があるのかと思われるようなどろどろかされますが、走っている時は画面は見れないでやはり頭脳ナビに頼らざるを得ないのです。田舎に行くとあまりにおおざっぱで画面

上に出てこないこともあります。ナビシステムより安心出来ます。ナビシステムより安心出来ます。ナビシステムより安心出来ます。

又そうしたことによって対話が生まれ人との結がりが出来るのではないで

しょうか。画面を見ているだけの

一方通行、今のテレビゲーム世代には都合が良いのかも。ナビシステムを使わないで、五万分の一の地図を

片手にその先の人家のある集落へと

最近記録として残すように頑張つて

いますが、あと何年かかりますか。

兄弟が人か愛を持ち良く帰れる新しい集落と意識の改築そして社会基盤整備を。人間の都合で行わないで、そこに溶けこめる型であってほしいも

のです。集落見聞写記はいつかの機会に。近くに行つた折には改良区に

## 新年を迎えて

請戸川土地改良区 天野 真由美

に驚いた太郎は、今度は「つるになつて空高く飛んで行きました。」となつていたのですが、つるは千年、かめは万年。とすれば、乙姫様の言う通り、若い太郎がずっと待つて、おじいさんになってから開ければ、結果的につるではなく、かめになれたのです。そしてまた竜宮城に戻つて来て欲しいという願いが込められたすごいおみやげだったのです。なんともつたない事を、豪華なお城で、美しい乙姫様のもとでいつまでも暮す。年が改まつて思うこと、私はどうやら、神社仏閣に縁があるらしく、生まれ育つた実家のすぐ隣が真言宗のお寺で、大晦日は、百八ツの煩惱を振り払うという除夜の鐘の音を耳にしながら新年を迎へ、今は、社家に嫁いで十年三十余年宮司である主人が執り行なう新年の一番祈とうを、逃早く拝聴できることは、なんとあります。今年は私の年。卯年。うさりがたい事と思う次第です。

さて、今年は私の年。卯年。うさぎで思い浮かぶのは、「うさぎとかめ」のお話。お話を聞えれば、「うさぎといふ姫様のもとでいつまでも暮らせたものを。うさぎさん、いいですか、「急い

てびよんびよん跳ぶのもいいけれど、

が流れていた事に呆然とし、決して見えなかつたものが見えるはず。氣

中にはか入れていいのか知りたくて  
がまんできなかつたわけでも、乙姫  
様との約束を知つていて故意に破ろ

うとしたのでもないけれど、手が動  
よろしくお願ひ致します。

「白髪のおじいさんになつてしまいました。」で話は終り。たまたま、

- 15 -



年男年女

# 新 春

会津高田町土地改良区  
佐藤正雄

年があらたまり、新しい年を迎える、希望の持てる年になつて欲しいと言う切実な願いは持つていいが、若い人々は景気の回復がなければ就職も覚束ないであろうし、就職が出来なければ、今後自分が証等はあって無いようなもので仕事がなくなれば解雇に直結してしまってありますから、何時かはわが身の言う事になるのでしょうか。本来であれば新年度の抱負を書かなければいけないのでしょうが、愚痴ばかりになつてしましました。本当にお詫びを申し上げます。

事が生きていく上で意  
出来るのは自分を見失わないよう  
事は困難になると考えら  
に生きたいと考えます。

会員の皆様には、平成十一年度がより実りある年になりますようにお祈りをもうしあげます。

ない。悲観的なことばかり  
よいましたが、私の勤務し  
地改良区も似たような内容  
半に申し上げれば身分の保

# 永年勤続

## 土地改良区？

社川沿岸土地改良区 山寺一

「何處に行つてゐるの？」と勤務先を尋ねられて「土地改良区」と答えると何する所と殆どの人が言う。しかし、今でこそ自分の仕事が何なのかを人に説明できるが、十年前の採用試験を受けていた私自身も何をする所か知らない状態でした。貯水量百二十万トンの決して大きいとは言えないダムを管理するのが、主な仕事です。中通り南部に位置する当地方は、慢性的な水不足地域です。春の代かき、田植えの時期に雨が降らないと大騒ぎとなります。ここ数年は毎年の様に対策の為の会議を開きました。しかし今年は當改良区の歴史の中でも無いような水の心配のない年で、田植え終了までダムからの放水の必要がありませんでした。逆に八月末には未曾有の大雨で同じ県南地区の西郷村、大信村そして白河市等においては大災害となつてしまふです。

違いで当改良区管内においては、水田の一部冠水程度に終わりました。

毎年一、二回は台風の通過でダムに泊まり込みすることがあります。今回の大雨では初めて二泊しました。

台風の場合は通過するとすぐに天候が回復しますが、何時良くなるか解らない状態での待機はとても心配でした。山からの土砂が、周回道路を塞いだものの大事には至らずに済みました。人間が想定したものを越えてしまつた時、計り知れない強さで人間に襲いかかる自然。今回の災害で改めて思い知られました。今年

と昔はいいましたが、三十歳過ぎた頃からは「このままでいいのか？」と言う一種の焦りみたいなものが同居していました。

農協で【組合運動】を十数年、そして土地改良区で十年の月日を数えこととなりましたが健康の有り難さを実感する歳になりました。そんなことからも【十年勤続】の区切りは一つの大きな意味を持つものなかもしれません。

人生は偶然の連続で有ると言いますが私も同感です。自分の理想は理想で持つてゐるつもりですが、偶然に支配される自分に負けないで、あるいは大切にしたい偶然に全力投球したいと考えています。

先人たちが苦労と努力で現在に至っている水田のある風景を形は変えることはあっても永遠に残つていくよう、「土地改良区って何？」と言わざるも「米づくり」には必要欠くべ

からざる「土地改良区」としてあり続けたいと微力ながら努力していくたいと思います。ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願ひ致します。

## 人間五十年：

猪苗代町土地改良区 高橋二三雄

### 『人間五十年』

と昔はいいましたが、三十歳過ぎた頃からは「このままでいいのか？」と言う一種の焦りみたいなものが同居していました。

『私を支えてくれたもの』

大切にしたい偶然として、今現役を引退している五十嵐理事長との出会いが有ります。今やること、やらなければならぬことを的確に捕らえ職員を信頼し、調子に乗つていろいろやり過ぎても責任はおれが取ると言って、職員に反省を促すのも大変うまい方だったことを思い起こします。

平成六年県営ほ場整備事業戸ノ口地区採択、換地計画を確定するに当つては土地連の今井換地土の手法が記憶に残ります。第三者換地を仕組み、公平無私は勿論のこと、権利者会に提案するまでの換地委員相互の理解を得るための話合い、将来の営農を前提にした組合員に目線の合つた指

導は心を震わせるものが有った。

翌七年からは農地集積の作業が本格化し、(財)福島県農業開発公社が集中的な土地利用調整を指導してくれた。中でも片平課長の推進手法は単に集合的利用権等調整事業のマニュアルに止まらず、我々が本流と考える組合運動そのものである率先垂範の氣概を感じるものであった。

最後の役者として大久保喜内先生(旧農業改良普及所長)をご紹介する。農地集積推進事業の一環としてご講演をいただいた。江戸末期の篤

農家(徹底した実践主義者)二宮尊徳の殖産を説き村を復興させた話をされた。その手法が話合いすなわち

うように話合いによって合意を創る

でイモコジ会で村づくりは猪苗

代町土地改良区農地集積のキヤツチフレーズである。

『発意、合意、実践による村づくり』

は積年の私の思いである。迷える子羊をお導き戴いた皆様に心から感謝したい。

## 十年振り返つて

布藤土地改良区 川井秀子

この度は、勤続十年の表彰をして

いただき、身に余る光栄と心から感謝をいたしております。

十年ひと昔と申しますが、本当に喜怒哀楽が見事に交錯した十年間でした。

しみじみと感じております。

子どもを抱えて、布藤堰土地改良区に臨時採用で勤務したのが、昭和五十九年十月、本採用になってから十余年もの時間が経過したことになります。

## 二十年を振り返りそしてまた二十年後

東根堰土地改良区 石神正雄

まず始めに、昨年八月末の豪雨に

より被災されました県南地方をはじめ、県内各地の会員の皆様に謹んでお見舞を申し上げますとともに大変

ご苦労さまでした。

昔と言い換えてもいいくらい時の流れの速さに驚くばかりです。

顧みますと我が改良区では、用水路の老朽化に伴い、昭和四十八年度より県営灌漑排水事業、昭和五十七年度より団体営灌漑排水事業と工事の真最中であり、当初五カ年の計画で着工した事業も総需要抑制等により著しく遅延し、県営、団体営の両事業を合わせて十九カ年の歳月を経て平成一年度に無事完成をいたしま

日本の農業問題も土地改良区の業務内容についても、何一つわからぬ

い私でしたが、毎年恒例の業務研修会は、自分をして仕事を見直す大変よい機会でしたし、会員の皆さんとの懇親会は、いつも先輩の方々の

が、いまでは私の一番好きな言葉になっています。

これからも、会員の皆様や組合員の方々のご指導をいただきながら、日々成長する自分でありたいと思う

この頃です。

たことを、今思い出しております。

「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」

今は亡き父から教えられたのです

が、いまでは私の一番好きな言葉に

日本農業問題も土地改良区の業務内容についても、何一つわからぬ

い私でしたが、毎年恒例の業務研修会は、自分をして仕事を見直す大

変よい機会でしたし、会員の皆さんとの懇親会は、いつも先輩の方々の

が、いまでは私の一番好きな言葉になっています。

これからも、会員の皆様や組合員の方々のご指導をいただきながら、日々成長する自分でありたいと思う

この頃です。

たことを、今思い出しております。

「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」

今は亡き父から教えられたのです

が、いまでは私の一番好きな言葉に

日本農業問題も土地改良区の業務

内容についても、何一つわからぬ

い私でしたが、毎年恒例の業務研修会は、自分をして仕事を見直す大

変よい機会でしたし、会員の皆さんとの懇親会は、いつも先輩の方々の

が、いまでは私の一番好きな言葉になっています。

これからも、会員の皆様や組合員の方々のご指導をいただきながら、日々成長する自分でありたいと思う

この頃です。

たことを、今思い出しております。

「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」

今は亡き父から教えられたのです

が、いまでは私の一番好きな言葉になっています。

これからも、会員の皆様や組合員の方々のご指導をいただきながら、日々成長する自分でありたいと思う

した。

この間、無我夢中の毎日で様々な出来事が思い出され、事業を通して県、土地連の皆様をはじめ多くの方々と出会い、懇切丁寧にご指導を頂きましたことは、私にとって掛けがえのない財産であり、その経験を糧としてなお一層の精進をしなければと頑張っている次第であります。

さて、振り返ってばかりでは進歩が無いので近い将来について述べてみましょう。ついこの間、ゴルフの反省会で友人達と酒を酌み交わしながら「おれ家の義父は七十四歳で自分の歳ぐらいのスコアで回るんだぞ。」からこんな話になりました。

二十年後、三十年後に俺たちは大好きなゴルフが元気に出来るだろうか、もっとウマくなっているのかななど様々な話が飛び交いました。そんな中でA君が、「出来ると思うけど、その頃は自分が動かないでロボットがゴルフをしてくれるような時代になっちゃうんじゃない。」

B君「そうだね、ロボットでの性能競争に変わつてパソコンゲーム感覚で出来るような時代になつているかもネ」

うかなあー。

ゴルフをやる人とは思えないなあー。因みに彼らは下手くそなんです。

そうなんですよね。先輩たちが言つ

てました田植えは人間の労力でしか

出来ないと思っていたのが、機械で植えることが出来るようになり、當時としては夢のようだった。しかも

二条植えが七条植えとエスカレート。今では「ええい、面倒だいへんに。」

こんな具合に種まきも空中から直播と益々変革をみせている。

農業経営もパソコン時代、近い将来米作りも自宅で画面を見ながらビールを片手にロボットに指示し、育苗管理から生産までできる日がすぐそこに来ている。

宇宙飛行士向井千秋さんがスペー

スシャトルでの野菜栽培実験、もうすぐ始まる宇宙基地建設等、私達が少年時代マンガで見たあの夢のような世界が現実になろうとしている。

私もあまりにも早い時代の流れに遅れを取らないよう受賞を機に一層の精進を誓い、乱文ではありますが、抱負の一端とさせて頂きます。

マッテクレー。

## 豪雨奮戦記

阿武隈川上流土地改良区 芳賀昭次

換え八時頃ダムに向かう。

道路は川となり、マンホールから水が吹き上げている。加えて出勤時間が帯、渋滞もひどい。迂回しながらようやくを目指す道路に出れば、対向車

ましい電話に飛び起きた。直前に車で出かけた青果問屋に勤める息子の携帯電話からだつた。

「すごい水で大正橋が流されそうだ、ダムが抜けたんでねえの」

自宅から三百メートル程の阿武隈川に急いで駆け付ける。今迄見たこともない激流に驚く。根っこが付いたままおびただしい杉の大木が流れている。ドラム缶・パレット・タイヤ等々。普段なら絶対に流れるはずのないものが流れている。いったい

上流で何が起つたんだ……。混乱してしまった頭では判断が付かない。

そのうちに急を聞いてだんだん人が集まってくる。私の顔を見るなり、

みんなが叫ぶ。「ダムがぬけたんですねえのか」ずっと脳裏をかすめていた不安が自分のなかで現実化していく。ショックだ。思わず我に返つて連絡が取れた。

近くの親戚の家から同僚の鈴木さんは電話する。早朝から連絡が取れないでいたが、ようやく本人と初めて連絡が取れた。

その頃鈴木さんは堀川の氾濫で自宅が危険にさらされていた。窮状を訴え鈴木さんの三菱パジェロでダムに向かう、大型四駆の強み、六名の死者を出した太陽の国の惨状を横目

しました。事務所の軽の四駆に乗り泥流に遮られ一時間余りもかかる

に走る。途中警備に当たつていた消防団員に制止されるが、ダム管理のためであることを強く訴えて通させてもらう。ようやくの思いで到達した雪割橋の手前で土砂崩れで道路は不通、歩くには遠すぎる。松田さんの屋敷を通させてもらう。ダム近辺に来ると洗掘された路面のタイヤへの抵抗が激しくなる。ついにぬかるみにはまつてダムを目前にして自爆、途中から歩くはめに。苦心惨憺、ダムに到着したのは事務所から二時間余も要しての午前十時。

ついに目にしたダムは、満水まで一・五m程余裕を残していた。二十日より放水を始めていたので、急激な水位の上昇に耐えられたのだ。ホッとする。

堰堤左岸下方の管理事務所付近に目をやると、辺り一面水煙りに霞み茫々たるさまである。目をこらすと、前庭が崩落し、まるでナイagaraの滝と化しているではないか。普段なら全く流水のないところに忽然と大瀑布が出現したのだ。翌日訪れた阿武調のA課長の言を借りれば「災害

でなければ良い眺め」というしかないとばかり思つた。



## 磐梯西部土地改良区 鈴木和意

とにかく大惨事が目の前に起っている。急いで県南農林事務所に電話を入れるが、電話が混乱して別の

FAXはダム線の電柱の倒壊で不通である。焦燥感に襲われるがどうしようもない。私の不安などとは無関係に、大瀑布は轟々として激流を流れ落していた。

\* \* \*

西郷ダムは、貯水量三百三十万トンの昭和三十年に国営で造成された利水ダムです。六市町村にまたがり組合員二千三百余名、受益面積二千四百五十ヘクタールを擁します。

神戸淡路震災の後、本改良区の二台の電話は災害時優先電話となつて威力を発揮しました。だが、実際の災害時にはマニュアル通り行かない面もあり、多数の方々にご心配をかけ、ご支援を頂きましたことにつき感謝を申し上げる次第です。

新年あけましておめでとうございます。

土地改良事業に携わって二十二年の回想を綴つてみたいと思います。

私は、昭和五十一年に磐梯西部土地改良区の職員として採用され、当時磐梯町の西部地区全域にまたがる農地開発事業の最中であった、四月ともなれば電話のベルがひっきりなしに鳴り響き無我夢中で苦情の対応に当たり、今思えば何と意地の張つた対応をしていたのかと笑いがこみ上げ滑稽にさえ思えてくる。

この事業は昭和六十一年に完成を見たが、この間総需要抑制策、オイルショック、冷害等に遭遇し十三年の長きに渡り事業費は三倍に膨れ上がった。また農業への風当たりは強く高度経済成長の荒波が容赦なく襲いかかり基幹作物となつていた桑園やホップ、葉タバコ、ホワイトアスパラ等作付け抑制がなされ、農家の栽培意欲に影響し初期の目的を大きく変更せざるを得なかつた。

完成した農地には、大型ほ場の中

と未耕作のままの畠が広がっている。何のための誰のための土地改良事業なのかと懷疑と空しさがこみあげてきた。土地改良区はここまで仕事であり、ここから先は行政と農業指導だろうと考えてきたが、巨費を投じて出来たこの農地をこのままであってはならない。農村の故郷が茅野の中に埋まってしまってはならないといふ叱責が私を駆り立て、土地改良区の地位と農村で果たすべき役割を大きく展望しなければならないと考え、「地力増進事業」「畑作振興事業」を町と農協の助成を仰ぎ延六年間荒地を耕し植採の振興を図つた、この事業には数々のエピソードがあり、「地力でなく氣力増進」と言って理事の皆さんのが氣力で約十ヘクタールの畠を白い花咲くそば畠に生まれ返させることができ、時同じくして、農協の汎用コンバインの導入が活躍し町内約百ヘクタールのそばの作付がなされ、そばの産地として脚光を浴びた。

土地改良区としては、そばの振興

から付加価値を高め町おこしの一助として、そば祭りを企画し各種団体の参加によるそば祭りを八年間開催してきた、この間町の特産品のほりおこしや町の活性化などに貢献し、今年で十二回を迎えた時に定着したことはこの上ない喜びである。

しかし農業を取り巻く環境は年々厳しさを増し、兼業化がますます進行し後継者不足など農地の新たな活用が必要となり農地の汎用化と整備水準の向上を図るべく土地改良総合整備事業を平成五年度から着手し今日に至っている。

二十二年の流れは速いもの

です。土地改良区としてやるべきことが沢山残っているような気がしてなりません。農地の保全の事利活用の事、環境整備の事等々、組合員からの要望は山積しています。国民の食と命をあずかっている農業が益々栄えること、これをなくして豊かな国造りはありえないと思う。土地改良区職員の皆さんのがんばりが、厳しい環境の中の農業をしっかりと支えて

いると考えます。私たちの職場も厳しい環境にありますが、組合員の声を希望をしつかりと受け止めてその実現のために邁進しようではありますか。

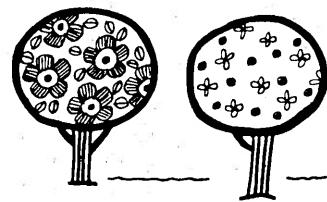
一九九九年が明けました。皆様にはご健闘で新年を迎えたことをとどお慶び申し上げます。

よろしくお願ひいたします。

さて、今年は一九〇〇年代最後の年です。こんな時代に生き合わせるなんて、それこそ千載一遇のチャンスです。百年に一回しかこの時代の節目だから、楽しく元気に過ごさなくては。といっても急に変化があるわけではなく、自然の営みは今年も淡々と巡っていくわけですが。昨年は八月末に集中豪雨災害による大きな被害がありました。被害を受けられた皆様には改めてお見舞を申し上げます。

今年は良い年であるよう、祈らずにはいられません。本年も会員の皆様、そしてご家族にとりまして、充実した幸多き年になりますように。

## 編集子



# “土地改良事業に関する業務は 土地連がお手伝い”

土地改良事業を行う会員の協同組織である県土地連は、土地改良事業の適切、かつ、効率的な運営の確保及びその共同の利益を増進することを目的とし、誠心誠意をもって、次に掲げる事業をお手伝いしております。

## 1. 技術的援助

- (1) 測量調査設計 (2) 実施・変更・出来型設計及び施工管理 (3) 確定測量
- (4) 換地計画及び登記申請書作成等の受託

## 2. 相談及び指導

- (1) 土地改良事業に関する相談及び農業基盤整備資金に関する指導
- (2) 土地改良管理指導センター・土地改良施設の管理に関する技術的な診断、指導
  - ・土地改良施設維持管理適正化事業に関する助言、指導
- (3) 換地センター
  - ・土地改良事業に関する換地事務の推進
- (4) 農村総合整備センター
  - ・農村総合整備事業の啓蒙普及及び技術の向上、指導

## 3. 電算処理

- (1) 土地改良事業工事費積算業務 (2) 換地業務設計及び経費積算 (3) 確定測量業務
- (4) 水文 (5) 水収支 (6) 土地改良区の賦課業務 (7) 各種土量計算



## 福島県土地改良事業団体連合会

会長 佐藤 栄佐久

〒 960-8502 福島市南中央三丁目36番地  
TEL 福島 (024) 535-0371 (代表)  
FAX 福島 (024) 535-1200